

## はじめに

本書は、学生の皆さんが日常生活の中でよく目にする14の企業を取り上げ、それらの企業が社会をよりよくするためにやっている取り組みに注目しました。これから社会に出る皆さんに、このテキストを通じて企業と社会の関わりについて理解しながら、英語学習を深めてほしいと思います。

各ユニットで取り上げた企業の業種は、製造業、小売業、情報通信業、飲食サービス業など、どれも身近に感じる業種だと思います。企業の仕事や活動について考えるとき、皆さんはどのようなことを想像しますか？ 一人の客として企業と接すると、食品メーカーは食品を製造・販売し、小売りスーパーは商品を仕入れて売り場に陳列する……そして皆さんはそれらの商品を購入する、ということのを思い浮かべるかもしれません。しかしながら、企業は、その業種に関わることだけに力を注いでいるわけではありません。例えば、ある食品メーカーは、食品を製造・販売するだけでなく、食を通じて子どもたちに環境問題を考える機会を設けたり、運動をする楽しさを伝え健康を促進する働きかけを行ったりしています。また、ある電気機器メーカーは、エンジニアを育てるために教育機関の充実に乗り出しています。このように、企業はよりよい社会やコミュニティを創るために独自の活動を行っているのです。

主に各ユニットのリーディングパートで、このような企業の社会的取り組みを紹介しています。まず、リーディングパートをしっかりと理解できるように、学習の導入として必要な単語や熟語の習得、事前の企業調査を行ってください。リーディングパートで企業の取り組みについて理解した後は、会話や作文を行い、英語の知識を定着させながら、自分の英語で企業の取り組みを表現できるようになりましょう。そして、ユニット全体を通して、「この会社はこんな活動をしていたんだ」と企業の新たな顔を知ることによって、日常生活の中で企業や店舗、商品を見る目に変化が起こることを望んでいます。

このテキストのタイトルである“**Purpose**”には「社会の中における企業の存在意義」や「(企業の)意志」に加え、「(学生の皆さんが学ぶ)目的」という意味が込められています。本書を通して、社会を良くするための企業の「存在意義」や「意志」を理解し、「自分だったらこんな取り組みで社会に貢献したい」という皆さんの「目的」を見つけてください。

著者一同

---

## 本書の使い方

---

### Small Chat

---

各ユニットの学習を始める際に、ペアまたはグループで英語を使ったウォームアップをします。質問には皆さんのアイデアを自由に答えてもいいですし、回答に困ったときは右側の選択肢を使って答えることもできます。選択肢の語句だけではなく、センテンスで答えるようにすると英会話力の向上につながります。自分の回答をグレーの解答欄に書いたら、周りのクラスメートと英語でやりとりをしましょう。

### Words and Phrases

---

**A** 日本語の内容を表す英語のスペルを書き、この後の **Speed Reading** で役立つ単語を覚えましょう。スペルが分からないときは、まず自分で調べて書いてみましょう。すべてを記入したら、今度は音声を聞きながら声に出して発音を確認しましょう。アクセントの箇所にマークをつけるなどの工夫もするとよいでしょう。

**B** この後の **Speed Reading** で役に立つフレーズの意味を確認しましょう。その後、**A** と同様に音声を活用しましょう。

### Dictation

---

**Speed Reading** の学習を始める前に書き取りの練習をします。音声を聞き、空所に入る語を書き入れましょう。単語のスペルが分からないときは、分かる範囲で書くようにし、全くの空欄とならないようにするのが、リスニング力を上げるコツです(例：“dictation”のスペルが分からないが、最初の音はなんとなく分かる場合、“di\_\_”のように書いておきましょう)。音声は繰り返し聞いてもよいです。また、解答を確認した後に、再度音声を聞き、聞き取れなかった音を確認することも英語の耳を作るのにとっても大切です。

### Pre-knowledge

---

まとまった英文を読む前に、関連する知識を確認することは英語のリーディング力をつけるのに有効です。企業についての英文が正しいのかどうか、キーワードを取り出して検索してみましょう。例えば、**There are about 200 million LINE users and most of them are American.** という文については、「LINE、利用者、国別」などがキーワードになるでしょう。調べた情報は、**Speed Reading** での皆さんの読解に役に立ちますのでメモを残しておきましょう。

## Speed Reading

---

このセクションでは、皆さんのリーディング力を高めるためにスピードリーディングというトレーニングをします。必要な情報を即座に捉える力は社会で求められるものです。手元にスマートフォンや腕時計などのストップウォッチで時間を計る準備をし、緊張感をもって取り組みましょう。音読できた時間を計ったら、**Speed Records**に記録をし、wpmを算出しましょう。wpmは“Words per minute”（1分間に読める語数）のことです。160語程度を目指すとよいでしょう。読むスピードを上げつつ、分からない発音もチェックすることで、確実にリスニング力とリーディング力が上がります。各種資格試験の対策として、まず右側の質問に目を通し、情報を的確に捉えることを意識しながら左側の英文を読むのも効果的です。1つの段落を読み終えるごとに、右側の質問に答えましょう。

## Dialog

---

**A** 音声を聞きながら空所を埋めます。**Dictation**と同様に、分かる範囲で聞こえた音を書くように心がけましょう。

**B** スピーキング力とリスニング力を上げるためのトレーニングです。**STEP 1** → **STEP 5**の順番に進めましょう。

**STEP 1** 発音が分からないと、知っている単語も聞こえないものです。リスニング力を上げるために発音分からない語には下線を引きましょう。

**STEP 2** 下線を引いた個所に注意しながら音声を聞きましょう。

**STEP 3** ペアで声に出して読みながら、自分の発音を確認しましょう。

**STEP 4** & **STEP 5** 英語を読める速さは聞き取れる速さに比例します。ネイティブスピーカーと同じスピードで読むことに挑戦しましょう。1回の練習では難しい場合もあります。繰り返しの練習が大切です。

## Expression **A** **B**

---

アウトプットの練習です。これまでの学習を振り返りながら、ユニットで学習した表現を定着させ、最後には自分の意見を書きましょう。

# Contents

はじめに  
本書の使い方

<b>Unit 1</b>	<b>7-ELEVEN</b> ..... 8	
	地域密着の移動販売車	
<b>Unit 2</b>	<b>LINE</b> ..... 14	
	スマホ世代に伝えたい情報リテラシー	
<b>Unit 3</b>	<b>NISSIN FOODS</b> ..... 20	
	笑顔を届ける百福士プロジェクト	
<b>Unit 4</b>	<b>McDonald's</b> ..... 26	
	子どもと家族をハッピーに	
<b>Unit 5</b>	<b>TOYOTA</b> ..... 32	
	未来の当たり前を創る Woven City	
<b>Unit 6</b>	<b>STARBUCKS</b> ..... 38	
	コーヒーの豆かすを肥料に	
<b>Unit 7</b>	<b>AEON</b> ..... 44	
	豊かな社会を目指した植樹活動	



# NIKE ..... 50

誰もが運動を楽しめる社会に



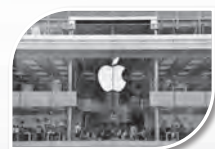
# MUJI ..... 56

地域と連携した公園づくり



# Apple ..... 62

リサイクルロボット Daisyと Dave



# Rakuten Group ..... 68

多様性に配慮した働き方



# Amazon ..... 74

STEM教育の充実を目指して



# IKEA ..... 80

すべての人が平等に暮らせる毎日を



# Dyson ..... 86

未来のエンジニアを育てるための大学



## LINE

スマホ世代に伝えたい情報リテラシー



## Small Chat

右の語句を参考に、次の問いに答えましょう。

What do you use when you communicate with your friends?

1.

What is your favorite emoji to use?

2.

What's a good way to say, "It's funny!" in text?

3.

a smiley face

my phone

a thumbs up

LOL

haha

social media

## Words and Phrases



DL 010



CD1-10

**A** 次の日本語に合う英語を（ ）内に入力して書き入れましょう。

1. 100万の ( m \_\_\_\_\_ )
2. 必要な ( n \_\_\_\_\_ )
3. 教育的な ( e \_\_\_\_\_ )
4. 安全に ( s \_\_\_\_\_ )
5. 適切に ( a \_\_\_\_\_ )
6. 教材 ( m \_\_\_\_\_ )
7. 助言 ( t \_\_\_\_\_ )
8. フレーズ ( p \_\_\_\_\_ )
9. ユニークな ( u \_\_\_\_\_ )
10. ～を認識する ( r \_\_\_\_\_ )

**B** 次の語句に合う日本語訳を選択肢から選びましょう。

- |                                    |     |              |
|------------------------------------|-----|--------------|
| 1. general incorporated foundation | ( ) | a. ソーシャルメディア |
| 2. related to ~                    | ( ) | b. 一般財団法人    |
| 3. social media                    | ( ) | c. AにBを提供する  |
| 4. provide A with B                | ( ) | d. 例えば       |
| 5. for example                     | ( ) | e. ~に関連する    |

## Dictation



DL 011



CD1-11

音声を聞いて空所を埋めましょう。その後、英文を日本語に訳しましょう。

- The Internet and social media are ( ) for all ages.  
\_\_\_\_\_
- They enjoy the textbook ( ) ( ) U.S. culture.  
\_\_\_\_\_
- I don't want to hear, "You're ( )" ( ) ( ).  
\_\_\_\_\_

## Pre-knowledge

LINEについて調べ、次の1～3が正しければT、間違っていればFを選びましょう。調べた際に、新たに知ったことがあればメモ欄に書き留めましょう。

- There are about 200 million LINE users and most of them are American. [ T / F ]



- A general incorporated foundation called LINE Mirai Foundation was founded in 2019. [ T / F ]



- LINE Mirai Foundation offers educational workshops to students from elementary to high school. [ T / F ]



## Speed Reading

次の英文はA～Cの3段落に分かれています。以下のステップに沿って進めましょう。

**STEP1** 英文を読み、段落ごとにタイムを計りましょう。読むのにかかった時間とWPM（1分あたりに読める語数）を右の**Speed Records**に記録しましょう。

**STEP2** 英文を再度読みましょう。段落を読み終えるごとに、右の問いに答えましょう。



62 words



DL 012



CDI-12

As of 2022, about 200 million people use LINE, mainly in Asia. It is popular among a wide range of ages, including teenagers. This is because not only adults, but also young students live in a society where the Internet and social media are necessary. Because of this situation, the general incorporated foundation LINE  
5 Mirai Foundation offers educational activities to the young.



74 words



DL 013



CDI-13

The foundation provides education for young students on how to use the Internet safely and communicate appropriately online. It offers online workshops related to social media use to schools for free. Furthermore, it provides teachers and parents with free materials with safety tips so they can also talk with their  
10 students and children about it. LINE Mirai Foundation hopes the young do not get in trouble communicating online and instead can just enjoy communication.



116 words



DL 014



CDI-14

The materials and tools for its workshops do not simply show examples of Internet troubles. The foundation uses original tools to make students think deeply about communication. For example, students can learn through cards. Each card  
15 has a phrase, such as, “You’re a good student,” “You’re quiet,” “You do everything well,” “You’re unique,” and “You have your own pace.” Then, students place the cards in the order of what they would not want to hear from others and then they compare them with their classmates. They can recognize differences among people and learn we all have different views. LINE Mirai Foundation thinks this is the  
20 first step to getting to know each other and communicating well.



Speed  
Records

**A** 62 (語数) ÷ \_\_\_\_\_ (かかった秒数) × 60 (1分あたり) = \_\_\_\_\_ wpm

**B** 74 (語数) ÷ \_\_\_\_\_ (かかった秒数) × 60 (1分あたり) = \_\_\_\_\_ wpm

**C** 116 (語数) ÷ \_\_\_\_\_ (かかった秒数) × 60 (1分あたり) = \_\_\_\_\_ wpm

**A**

1. LINEの主なユーザーはどの地域にいますか。 ( )
2. 中学生の間でLINEは人気ですか。 (はい・いいえ)
3. LINEみらい財団は若者に何を提供しますか。 ( )

**B**

1. LINEみらい財団はインターネットを ( ) に、そしてオンラインで適切に ( ) をするための教育活動を行っています。
2. LINEみらい財団は ( ) に関連するワークショップを提供しています。
3. LINEみらい財団は無料の ( ) を ( ) や保護者に提供しています。

**C**

1. The foundation uses activities to help students think more about conversation. [ T / F ]
2. The foundation helps students practice giving compliments to each other. [ T / F ]
3. People may have different views when hearing a certain phrase. [ T / F ]



## Dialog

**A** 次の会話を聞き、空所にあてはまる語を書き入れましょう。  DL 015  CD1-15

**Emma:** I <sup>1</sup>( ) Mia yesterday to ask if she had finished the homework. I got a reply saying, "I did. Why do you ask me?"

**Kento:** Hmm .... That <sup>2</sup>( ) <sup>3</sup>( ) she was upset that you asked. I wonder why.

**Emma:** Maybe she thought I didn't expect her to do her homework. I didn't mean that, though.

**Kento:** Yeah, <sup>4</sup>( ) through text messages is difficult. It's difficult to recognize the other person's intention.

**Emma:** Right. We can't know the tone of the other person's <sup>5</sup>( ).

**Kento:** I think talking <sup>6</sup>( ) <sup>7</sup>( ) is sometimes better than texting. It's necessary to tell her that you didn't mean to upset her.

**Emma:** You're right, I'll talk with her tomorrow. Thanks for the tip!

**B** 次の1～5のステップで、会話の発話練習をしましょう。

**STEP 1** ▶ 音読し、発音分からない単語に下線を引きましょう。

**STEP 2** ▶ **A** の音声をもう一度聞いて、発音を確認しましょう。

**STEP 3** ▶ ペアを組み、EmmaとKentoになって読んでみましょう。

**STEP 4** ▶ Emmaのみの音声 (  DL 016  CD1-16 ) を聞き、音声のスピードを意識しながらKentoのパートを発話しましょう。

**STEP 5** ▶ Kentoのみの音声 (  DL 017  CD1-17 ) を聞き、音声のスピードを意識しながらEmmaのパートを発話しましょう。



## Expression

**A** 日本語訳を参考に、英文を完成させましょう。

- I think communicating \_\_\_\_\_ is easier.  
対面でのコミュニケーションのほうが簡単だと思います。
- Free workshops \_\_\_\_\_ are popular.  
ソーシャルメディアに関連する無料のワークショップは人気があります。
- \_\_\_\_\_ online materials.  
その先生は学生たちにオンライン教材を提供しました。
- \_\_\_\_\_ at the event.  
学生たちは人々が異なる考えを持っていることをそのイベントで学びました。

**B** LINEについて自分の意見を書いてみましょう。

### What's your view on LINE?

I think LINE is a/an \_\_\_\_\_ application because \_\_\_\_\_.

## LINEの誕生と東日本大震災

LINEというサービスの誕生には東日本大震災が関係していたことを知っていますか？ 震災が起こったとき、多くの地域で水や電気のみならず、電話やメールなどのインフラが使えなくなりました。家族や友達の安否を知りたいのに連絡ができないという状況を多くの人が経験しました。

そうした中で「こうした時こそ、大切な人と連絡をとることができる手段が必要だ」という想いのもと、LINEというモバイルメッセージャーが誕生したのです。そして「人と人を結ぶ線」という意味を込めて、このサービスをLINEと名付けました。



LINEの開発当初、開発チームがメッセージングアプリ以外に開発を検討していたアプリはどれでしょう？

- a. ゲームアプリ
- b. 音楽配信アプリ
- c. 写真共有アプリ

※本ユニットの内容は2023年8月時点の情報です。

※LINE株式会社は、グループ内再編に伴い2023年10月1日よりLINEヤフー株式会社となっています。